



# ハートだより

香川県立高松養護学校  
人権・同和教育部  
2023年2月24日発行  
第53号

## 「心の鬼」

教頭 水早 栄子

掛け声とともに豆をまいて家から邪気を払い出し、幸せがやってくることを願う日本の伝統的行事「節分」。今月初め、校内においても児童生徒たちの元気なかけ声が響きわたりました。

邪気とは、辞書によれば、素直でない、ねじけた気持ち・性質、悪気、そして、人の身に病気を起こすと信じられた悪い「気」のことも指しています。豆まきは、病気や災難が家から出るように「鬼は外」「福は内」と唱えて行われますが、実は外から来る災難だけでなく、人の心の内側に問題があるのかもしれない。鬼は、人の中に住まう「負の感情」の象徴ともいわれます。

### <人間を不幸にする心の「鬼」>

- 感謝を忘れた心
- 人に親切にできない無慈悲な心
- 人と比較ばかりする心
- 目標を目指せない心
- 友人や家族を大切にできない心
- 内面やプロセスを無視し、結果だけにこだわる心



(新潟青陵大学大学院教授碓井真史「節分の心理学」より)

私たちが追い出すべき鬼は、私たちの心の中に住んでいて、自分自身の考えや悪習慣こそが、私たちの幸福を奪う「鬼」なのかもしれません。

ところで、11月末～1年半ばまで、保健室前廊下において校内人権作品展が行われました。学部ごとに期間を区切り、児童生徒のみなさんの作品がずらりと飾られました。それらは、これまで授業で取り組んできたことを絵に描いたものだったり、いつもお世話になっている人たちへの「ありがとう」メッセージだったり、日々頑張っている自分を励ます言葉だったり、どれも素敵な作品ばかりでした。

あれ、あれ？人間を不幸にする心の「鬼」とは、対照的ですね。児童生徒のみなさんは、日頃から友人思いの優しい心だったり、お世話になっている人への感謝だったり、揺るがない信念を持って絶え間ない努力を続けることなどを、実はもう実行しているのです。心の鬼を寄せ付けないみなさんこそ、幸福な人だと言えるでしょう。

まだまだ寒い日が続いていますが、もうすぐ3月。庭の植物たちは、まだかまだかとおぼみを膨らませて春を待っています。卒業して新しい環境での生活が始まったり、次の学年にステップアップしたり、児童生徒のみなさんにとっても大切な準備期間です。学年の変わり目は、心機一転新たな目標に向かって一步を踏み出すチャンスです。ぜひ、今自分がやっていることに自信を持ち、次のステップに向かって頑張りましょう！

# 高松市人権作品展 出品作品の紹介



小学部4年1組  
秋山侑大さん



小学部4年1組  
石井杏奈さん



高等部1年1組  
矢野琥太郎さん



中学部3年1組  
古川 和さん



高等部3年1組  
河本康佑さん

高松市人権作品展に出品した作品は、12月6日～11日にコトデン瓦町ビル8階市民交流プラザに展示されました。

## 改正「障害者差別解消法」

令和3年5月の「障害者差別解消法」の改正で、「合理的配慮」が民間企業でも法的義務となりました。

改正「障害者差別解消法」では、障がいのある人に「不当な差別的取り扱い」をすることを民間企業にも禁止しています。

この「不当な差別的取り扱い」の中には、障がいのある人に対して正当な理由なしに、障がいを理由としてサービスを拒否することや、サービスを提供する場所や時間を制限したり、障がいのある人だけに条件をつけたりすることが含まれます。

つまり、「障がいを理由にして店舗への入店や受付を拒否する」、「障がいのある人を無視して周囲の支援者や介助者のみに話しかける」、「保護者や介助者が一緒にいないとサービスを提供しない」といった対応は差別にあたることとなります。

改正法は、公布日（令和3年6月4日）から起算して3年を超えない範囲内において政令で定める日から施行されます。



## 校内人権作品展

## 出品作品の紹介



【小学部5年1・2組】

### 「私のワンピース春夏秋冬」

絵本「私のワンピース」を読んで、自分たちのオリジナルのワンピースを作りました。みんなでいろいろな素材を巻いて四季の山も作りました。



【中学部1年3組Dコース】

### 「ともだち」

わたしたちが種をまいたり、水やりをしたりして、大切に育てたアサガオで『たたき染め』をしました。ともだちの笑顔といっしょに咲いています。



【高等部Cコース】

### 「差別の木を切ろう」

差別をなくそうと努力する人になるにはどうすれば良いか考えて、ノコギリやオノに書いて貼りました。